

かたくり



創刊号

2010年1月27日

福島大学
行政政策学類
塩谷教養演習
編集・発行
(隔月発行)

発行趣旨

昨年、福島大学は創立六十周年を迎えましたが、同時に、金谷川キャンパスに移転して三十年が経ちました。この間、スポーツや音楽などを通じて、金谷川地区と大学との間にはさまざまな交流が行われていますが、いまだに「近くて遠い存在」ではないでしょうか。これから地区と大学の連携・協働を進めていくためには、お互いのことをもっとよく知る必要があります。福島大学行政政策学類の学生有志が集まり、住民の方々と福島市役所松川支所のご協力を得て、地区と大学を結ぶ瓦版『かたくり』を発行することになりました。皆さまのご支援をよろしくお願いいたします。

大学代表あいさつ



今野順夫(福島大学長)

この度、福島大学と金谷川地区との連携・協働の強化のために、それを繋ぐ「瓦版」を発行することになり、心から喜んでいきます。福島大学が金谷川地区に移転してから、はや三十年が経ちました。六十年の本学の歴史の約半分、福島大学はこの金谷川地区で教育研究事業を遂行してきました。二学部で発足した本学ですが、この地への移転以降、行政社会学部を創立し、さらに理工学群の創設によって、四つの学類へと発展し、各大学院を備え、大きな飛躍の三十年だったと思います。

一番肝腎の地元・金谷川地区との連携・協働が、あまり進んでこなかったことは否めませんが、学生・教職員も、地域の活性化を心から望んでいます。ここ数年、金谷川駅の改修や共同の研究會、様々な行事での共同の取組みが進み始めております。地域社会の活性化は、大学の大きな使命の一つです。相互の情報発信・情報交換の場として、この瓦版が、地域住民と大学構成員に愛され、協働の取り組みが進むことを心から期待しています。

地区代表あいさつ



佐藤秀雄(松川町町会長連合会金谷川地区代表)

新春の候、皆さまにおかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

金谷川地区では、一昨年、活性化委員会21を立上げ、福島大学との交流を今まで以上に深めるために、委員会の役員の方たちが大学を訪問し、大学と話し合い、金谷川地区と福島大学を結ぶ、瓦版『かたくり』を大学で発行し、金谷川地区に配布をされることになりました。今までも、金谷川地区の行事などには、大学の学生さんの協力を受けながら進めてまいりました。とくに、金谷川地区の大運動会などでは、前日から、グラウンドなどの準備やら、当日は準備係の仕事をしながら競技にも協力していただき、終了後の片づけまで最後の最後までお手伝いをしていただき有難うございました。また、大学の行事にも、地区住民を招待されてきました。誠に有難うございました。

金谷川地区も高齢化が進む中、高齢者の皆さまも、大学の行事に参加をして、学生さんたちとの語らいの場にしていきたいと思っております。また、金谷川地区の発展のためにも、大学と地区住民との益々の交流を深めていかなければならないと思っておりますので、今後とも宜しくお願ひ致します。簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。

瓦版『かたくり』の名前の由来

かたくりは、春の訪れを告げる里山を代表する可憐な花です。金谷川地区にはもともと多くのかたくりが群生していて、住民に愛されてきました。そこで、大学と金谷川地区を結ぶこの瓦版もこの地に根付いてきたかたくりと同じように皆さまに愛されてほしいと願い、『かたくり』を題名に選びました。

大学発！遊休農地復活事業始動！

大学と金谷川地区との連携・協働の場へ

大学と金谷川地区との連携・協働の一つとして大学正門に隣接する遊休農地を新たに利活用しようという事業がこの度本格的に始動しました。

この事業は、大学の顔とも言える大学正門に隣接する遊休農地を利活用して、大学と金谷川地区との交流を深めようという事業です。昨年七月頃から、「金谷川活性化委員会21」（石川秀夫会長）の皆さんのご協力を得ながら、地主の佐々木重雄さんにご相談させていただいたところ、昨年末になって、佐々木さんのご快諾をいただき、実現する運びとなったものです。この間、「金谷川活性化委員会21」の皆さんや教職員・学生と一緒に現地見学会を実施したり懇談会を開催したりしながらマスタープランを作成し、ようやく行動に移せる段階になりました。

現在の遊休農地は十年以上耕作が行われていなかっただけあり、スキヤササが生い茂り、人が足を踏み入れるのも難しいほど荒れてしまっています。そこで、三カ年計画のうち一年目の今年は草刈りや整地が活動の中心になっていきそうです。そして、最終的にはあずま屋を設置し大学生と住民が交流できる休憩・交流ゾーン、いくつかに区分して様々な野菜などを生産する生産ゾーン、もともとの景観に配慮し春は菜の花、秋はソバを栽培し、美しい眺めを楽しむ景勝ゾーンの三つの区域に分けて活用できるようにするのが目標です。地域との芋煮大会、ソバ打ち、ホタル復活プロジェクトなど様々な利活用の仕方があり、夢は膨らむばかりです。

活動は、主に福島大学生有志が行っていきませんが、経験不足であることは否めないのです、これからも「金谷川活性化委員会21」をはじめ、金谷川地区の皆さまのお力を必要とすると思っております。そのときはどうか協力のほどよろしくお願いいたします。また、福大生の積極的な参加もお待ちしております。



大学キャンパス側から見た遊休農地 1月16日撮影

お知らせ

瓦版『かたくり』では、金谷川地区と大学との交流を進めるために、互いの行事やイベントを掲載していきたいと思っております。お祭り、運動會、コンサート、講演會、サークルの活動などなんでも結構ですので、情報をお知らせいただければ幸いです。また、『かたくり』に対するご意見・ご要望もぜひお寄せください。連絡先は福島大学塩谷研究室 (TEL&FAX: 548-8328 MAIL: shioya@ads.fukushima-u.ac.jp) です。よろしくお願ひいたします。

なお、本号の編集は、塩谷教養演習一年生の大森亮介、武田玄、畠山陽介、日向野宏美が担当しました。